

急激な赤字財政。財政再建団体転落阻止が、今現在の「行政改革」「財政改革」の一番の火急のテーマである。

- 突然の再建団体転落(危機)は市民にとって寝耳に水の話である。
- 国からの補助金・交付金削減を市の財政難の全ての原因にしているが、市の政策ミス・甘い計算、対処の遅滞および議会の無責任が元凶ではないか。 ※ 議会は今月やっと財政勉強会を始めた次第。
- 行政改革の根幹は「職員の意識改革のもと、経費を削減し、なおかつ行政サービスを向上させること」である。
- 事態検証もせず、行政欠陥を是正せず、市民負担を強いるのでは市民は納得しない。
- 借金返済の先送りは解決にならない。先送りの先には神風どころかさらなる逆風もあり得る。(道州制・支庁再編など)。その後の市の計画性にも(前科があるため)疑心暗鬼が残る。将来への無責任な負担繰り延べは改革ではなく、急場しのぎである。
- なぜ今、「行政改革委員会」、「財政再建推進委員会」が開かれるのか。このままでは財政欠損(赤字)が続き、2、3年後に財政再建団体へ転落するからである。火急の事態に対処するべく抜本的対策を諮り、速やかに行うためである。
- 大幅増収が見込めないなかでは、民間並みの思い切った経費削減が必要である。費用項目では職員給与が一番大きい。大きなところからは是正するのが民間手法である。(多くの善意の市民は、税金を納め、市役所に行政を委託しているのである。第一の責任は信頼され委託されて行政を行ってきた市にある)
- 今、全国的に地域とかけ離れた厚遇な地方公務員給与が問題となっている。独自に削減を始めている自治体が出始めているなか、崖っぷちで危機的環境にある留萌市はむしろ率先して改革すべきである。
- まず、地域において高額とされる職員給与を地域水準に合わせる。痛みを分かち前に待遇を同じくすることから始める。(別添資料①～③参照)
(それだけで、行政サービス低減なく、今回の急場の財政問題、赤字再建団体転落危機は解決される)
- それでも足りない場合は市民も行政立て直しのため、痛みは甘んじて受ける。
- まず、「市職員である前に留萌市民であるべき」ことを望む。

行政改革の根幹・本懐とは

- 職員の意識改革のもと、経費を削減し、なおかつ行政サービスを向上させること
- 市民不在の行政のあり方を正す。

事例)

- ・各審議会・委員会公募に市民応募が極端に少ない。理由は審議の結論がすでに決まっているからである。
- ・原案を通すための恣意的な委員選任(行政寄りの委員、委員長の選任等)
- ・原案の大幅訂正はない。市民からの意見聴衆の場ではなく、原案追認の場になっている。
- ・審議途中の案件も決定事項として発表される。
- ・つまり行政(決定)スケジュールを埋めるだけの場として利用されている。
- ・政策失敗のツケは市民に回る
- ・市の部・課、どこにも責任はない。責任所在が曖昧である。